



初めての本格的台形CSG※ダム

昨今、ダム事業に関して、その建設意義が大きく問われ、見直し、凍結や中止と報道されている中で当別ダム事業主体の北海道知事の強い決意と地元住民の願望が相まって、去る10月10日にダム基礎式も無事終わり、昼夜を通しての24時間体制で55tダンプカーが動き回っています。

溢れる水を調整し、足りない水を確保し、気象条件をも克服可能にするダムは地域住民が生活していくために必要不可欠なものです。

平成24年、3年後には提頂長432mのダムができあがるでしょう。

建設過程を眺めながら人と自然の調和を目指し、地域の豊かな水資源を支える当別ダムの完成予想図を思い描くのもいいですよ。

議会広報特別委員会
(小早川委員)

あ
と
が
き

私・の・好・き・な が 自・然・と・の・調・和

※CSGとは「セメントで固めた砂礫（されき）」という意味で安定度の高い台形ダムに組み合わせることで従来に比べて工事費の削減や環境保全が達成される。